

17:1 六日の後、イエスは、ペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。

17:2 イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなった。

17:3 見ると、モーセとエリヤが現れ、イエスと語り合っていた。

17:4 ペトロが口をはさんでイエスに言った。「主よ、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。お望みでしたら、わたしがここに仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」

17:5 ペトロがこう話しているうちに、光り輝く雲が彼らを覆った。すると、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」という声が雲の中から聞こえた。

17:6 弟子たちはこれを聞いてひれ伏し、非常に恐れた。

17:7 イエスは近づき、彼らに手を触れて言われた。「起きなさい。恐れることはない。」

17:8 彼らが顔を上げて見ると、イエスのほかにはだれもいなかった。

17:9 一同が山を下りるとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまで、今見たことをだれにも話してはならない」と弟子たちに命じられた。

朗読の終わりは次のように唱える。

主に感謝。主に感謝します。

説教

説教は黙読でもかまいません。何人かで礼拝していれば、一人が音読する。

四旬節第二主日 2014.3.16

主の変容

マタイ福音書 17章 1-9節

きょうのテキストは山上の変容と呼ばれているところです。

この出来事は「十字架を通過して栄光にいたるイエスの道」に弟子たち、わた

したちを招くものとして古来から大切に語り継がれてきました。四旬節の第二主日に毎年この箇所が朗読されます。

イエスは三人の弟子をつれて高い山に登りました。するとそこでイエスの姿が輝いた、つまり神の栄光がイエスに現れた、神のみ子ということが明らかになった。これを変容といっています。その変容したイエスを見たペトロは仮小屋を三つ建てましょうという。これは記念したいという気持ち、お祝いしたい、かたちあるものにして残したいという気持ち、ある意味では人として普通の感情でしょう。

でも、かたちある記念碑をつくって拜んでみたり、お祝いしても実際のところどうなるわけでもない。大切なことは生きた神さまと日々どのように交わっていくかということです。小屋を建てたり、記念碑をつくったり、場合によっては教会をたてたり、でもそれは神が人間に求められていることではない。

わたしたちはただ、神との交わりに招かれています。

交わりとはふつうに言えば、関係、かかわりということです。言い方をかえれば「神は神と人間との本来のかかわり方を求められている」となります。たとえば、木や草はそのままで本来の姿を現しています。春になると芽吹いて、やがて花が咲き、実を結び、種が地に落ちる。また春が来ると同じところがおきる。人もそのように、生まれて、生きて、子をなして、育て、やがて老いて死ぬ。これならば草木となんらかわりはなく素朴ではありますが本来の姿です。でも人は誰もがこういうわけにはいかない。自分はこうあろうと思ってもまわりの環境がそうさせない、社会が許さない。また、おのずからなんかほかの事をやりだしたり、やらなかったりする。ひとは聖書がいう「罪」の状態にあります。きょうのペトロの場合は小屋を建てましょうということになった。でもその応答では筋が違う。だから雲の中から声がする、

神の声が響き渡ります。

「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」

つづいて「これに聞け」といわれる。つまりイエスに聞け、聞き従えということなのです。

わたしたちはイエスの姿になにを見、なにを聞くかといえば、父である神からしめされた愛、イエスのなかに流れている父の愛をみるのです。そして、そこにわたしたちは触れて、力をいただいて、それを生きていく、この生きてきた交わりこそがわたしたちを生かす本当の力です。

聖餐式という儀礼をとおして主の変容がいまも世界中の教会でおこなわれています。

聖餐のたびにパンがキリストのからだに変えられていく、そしてわたしたちがいただく、そのことによってわたしたちも主のからだに変えられていく。またキリストは貧しい人、苦しんでいる人、小さくされた人にも変容されて、わたしたちの前に現れてくることもあります。その人たちと関わることでわたしたちは変容した主をいただく、というか、交わること・かかわることができる。主の変容は神の栄光を現した山上での一回限りの出来事です。しかし、ちがうかたちで主イエスはきょうもわたしたちの前に変容して現れています。

ほんとうにイエスに聞いていく時、わたしたち一人ひとり、そして共同体・教会としても、罪深さや、弱さをかかえているけど、イエスに聞き、そして従っていく時に、イエスの恵み・神の愛をいただいて、わたしたち一人ひとりも共同体としての教会も変容されていきます。

わたしたちにとって大切なこと、大事なことは神との交わりです。わたしも、教会も、世界も、神との本来的な関係にはいったときに変容されます。それは最終的には神の国に変容されます。肉となってこの世に産まれてくださっ

たみ子イエスがいる、それゆえの希望がわたしたちにはあります。